



宮前中だより

さいたま市立宮前中学校
学校通信 No. 3
平成29年 6月 1日 (木)

さいたま市西区宮前町1467-1 Tel 623-7381 e-mail: miyamae-j@saitama-city.ed.jp

「心の豊かさ」

校長 中村 淑人

新緑の中、第39回体育祭を20日(土)に実施いたしました。ご来賓、保護者、地域の皆様には、5月とは思えない30度を超える暑さの中、ご参観いただきお礼申し上げます。掲げたスローガン「突っ走れ! 空前絶後の宮前魂」に全校生徒の努力が結集した体育祭でした。生徒たちの精一杯の競技に力強いご声援をいただき、ありがとうございました。

『6月はいじめ撲滅強化月間』

さいたま市立の学校では、6月をいじめ撲滅強化月間として、そのための取組を行っています。本校でも「いじめはどこでもおこる」「いじめは絶対に許さない」という共通理解のもと、各クラスで話し合いを行い、いじめ撲滅のためのスローガンを生徒会中心に決めて取り組んでいます。また、学校の教育活動全体を通じての道徳教育、「いのちの支え合い」を学ぶ授業、「人間関係プログラム」の充実を図り、「思いやり」や「寛容な心」の育成に努める他、県警あおい鳥の「命の大切さ」の講演会や、「心と生活のアンケート」と「学校独自アンケート」をはじめ、校内委員会を中心に、いじめ防止のために取り組んでいます。

ここで、6月の学校朝礼で紹介する福島県須賀川市立第二中学校1年生須田日菜子さんの平成28年度人権作文「小さな人権」の一部を掲載します。

私には、心に決めていることがあります。それは、どんなに小さな子供でも、大人と同じ条件で何かしようとしている時は大人と同じように扱おう、というものです。私が五歳の頃の話です。母が不在のある日、父に連れられて幼い私と二人の妹はスーパーに買い物へ出かけました。ところが、折悪く、小さな妹がトイレに行きたいとぐずり始めたのです。「日菜子、お父さんの代わりにティッシュボックスを買ってくることはできるかい。」……(略)……私の後ろの男性が自分のカゴをポンとレジ台におき、「あと、たばこ一つ。」とレジの人に声をかけたのです。私は慌てて自分の番だと主張しようと、あの、と言いました。ようやく、私の存在に気づいたらしいレジの人は、「ほらそこにいて危ないよ、早くお母さんのところに行つてね。」と言うのです。為す術もなく周りを見回し、それから遠くにいる父に目で助けを求めようとしました。なんだか悔しくなると、本当に泣きそうになったその時、「お客様の順番を間違えています。」というはっきりとした言葉が聞こえました。そのお店の名が入ったネームプレートをつけた年配の方でした。続けてその人は、私の後ろの男の人に向かって、「すみません、お待たせして申し訳ありませんが、こちらのお客様を先にさせていただいてよろしいでしょうか。」ときっちりと言ってくれました。男の人は、あ、ああ、すみません、どうぞどうぞ、と少しきまり悪そうに言いました。どうやらマネージャーさんらしきその人は、次に、私に掌を向けながらレジの人に「こちらのお客様に謝罪しなさい。」と、静かに告げました。そして、五歳の私に「失礼な対応をして、誠に申し訳ございませんでした。」と自ら深々と頭を下げてくれたのです。幼かった私には、その時何が起こっていたのか本当に理解していたとは言えません。ただ、周りの、レジに並んでいた人たちが大きな拍手をしていたことはしっかりと記憶に残っています。

生徒の皆さんが、いつでも相手の気持ちや立場を考えることができ、相手を尊重できる人に成長して、「宮前中学校の558人の生徒全員が、毎日の勉強や部活動に、安心して全力で取り組める学校」であってほしいと思います。そのためには、生徒一人ひとりの協力が必要です。また、心配なことがあったら、誰でもいいですから相談してください。保護者の方、先生方、クラスの友達、誰もが話を聞き支えてくれるはずです。みんなで力を合わせて「いじめのない、安心・安全な学校」にしていきましょう。『My School (宮前中) is the Best』

【6月25日は宮前中学校の開校記念日】本校は、日進中学校から分離独立して、昭和54年4月1日に開校し、今年で39年目を迎えます。この年の6月25日に校舎全面使用となり、以後開校記念日となりました。これまでの卒業生は8366名、諸先輩や当時の保護者、地域の皆様に支えられ伝統を引き継ぎ、今日に至っています。

私が五歳の頃の話です。母が不在のある日、父に連れられて幼い私と二人の妹はスーパーに買い物へ出かけました。買い物を終えたその時、母から頼まれていたティッシュペーパーボックスを買い忘れたことに父は気づきました。ところが、折悪く、小さな妹がトイレに行きたいとぐずり始めたのです。「日菜子、お父さんの代わりにティッシュボックスを買ってくることはできるかい。」困った父は私を頼るように言いました。「大丈夫だよ。だからトイレに連れて行ってあげて。」と答えた私でしたが、実際は一人でスーパーのレジに並んで会計をするなんて初めてでした。私の前にいた女性の会計が終わり、私はよいしょ、とボックスを抱え直し、一步前に出ようとしました。すると、私の後ろの男性が自分のカゴをポンとレジ台におき、「あと、たばこ一つ。」とレジの人に声をかけたのです。私は慌てて自分の番だと主張しようと、あの、と言いました。

私の前に並んでいるのは、たくさんの商品が入ったカゴを持った中年の女性。後ろはちょっと怖そうな外見の男性です。大人ばかりの列に入ると、五歳の私はとても小さくて、不安気に見えたそうです。私は私で、トイレから戻ってきた父と妹たちがレジから少し離れたところで私を見守っているのを見つけ、少し嬉しくなって手を振ったのを覚えています。

しばらく待って、私の前にいた女性の会計が終わり、私はよいしょ、とボックスを抱え直し、一步前に出ようとしました。すると、私の後ろの男性が自分のカゴをポンとレジ台におき、「あと、たばこ一つ。」とレジの人に声をかけたのです。私は慌てて自分の番だと主張しようと、あの、と言いました。

生徒の皆さんが、相手の気持ちを考えることができ、誰かを支えたりできる人に成長して、「宮前中学校の558人の生徒全員が、毎日の勉強や部活動に、安心して全力で取り組める学校」であってほしいと思います。そのためには、生徒一人ひとりの協力が必要です。

また、心配なことがあったら、誰でもいいです相談してください。保護者の方、先生方、クラスの友達、誰もが話を聞き支えてくれるはずです。みんなで力を合わせて「いじめのない、安心・安全な学校」にしていきましょう。『My School (宮前中) is the Best』

私には、心に決めていることがあります。それは、どんなに小さな子供でも、大人と同じ条件で何かしようとしている時は大人と同じように扱おう、というものです。それは、私が小さなとき、あるスーパーで教えてもらったことです。

私が五歳の頃の話です。母が不在のある日、父に連れられて幼い私と二人の妹はスーパーに買い物へ出かけました。買い物を終えたその時、母から頼まれていたティッシュペーパーボックスを買い忘れたことに父は気づきました。ところが、折悪く、小さな妹がトイレに行きたいとぐずり始めたのです。

「日菜子、お父さんの代わりにティッシュボックスを買ってくることはできるかい。」困った父は私を頼るように言いました。「大丈夫だよ。だからトイレに連れて行ってあげて。」と答えた私でしたが、実際は一人でスーパーのレジに並んで会計をするなんて初めてでした。商品を見つけ、預かった五百円玉を握りしめてレジに行くと、長蛇の列です。仕方なく、並んで待つことにします。私の前に並んでいるのは、たくさんの商品が入ったカゴを持った中年の女性。後ろはちょっと怖そうな外見の男性です。大人ばかりの列に入ると、五歳の私はとても小さくて、不安気に見えたそうです。私は私で、トイレから戻ってきた父と妹たちがレジから少し離れたところで私を見守っているのを見つけ、少し嬉しくなって手を振ったのを覚えています。

しばらく待って、私の前にいた女性の会計が終わり、私はよいしょ、とボックスを抱え直し、一步前に出ようとしました。すると、私の後ろの男性が自分のカゴをポンとレジ台におき、「あと、たばこ一つ。」とレジの人に声をかけたのです。私は慌てて自分の番だと主張しようと、あの、と言いました。しかし、レジの人はそのままその男性の会計をしようとしています。私が小さくて見えなかったのかもしれませんが、前後のどちらかの大人の人と一緒にいたいと思っただのかもしれませんが、どちらにせよ、レジは混んでいて、周りの人たちも私のことなど気にも留め

ていない様子でした。私はもう一度、あの、と声を出しました。ようやく、私の存在に気づいたらしいレジの人は、「ほらそこにいると危ないよ、早くお母さんのところに行ってね。」と言うのです。為す術もなく周りを見回し、それから遠くにいる父に目で助けを求めようと思いました。しかし、父も何が起きているのか気づいていないようなのです。このままでは私の順番は永遠に飛ばされてしまう。なんだか悔しくなって、本当に泣きそうになったその時、「お客様の順番を間違えています。」

というはっきりとした言葉が聞こえました。そのお店の名が入ったネームプレートをつけた年配の方でした。続けてその人は、私の後ろの男の人に向かって、「すみません、お待たせして申し訳ありませんが、こちらのお客様を先にさせていただいてよろしいでしょうか。」ときっちりと言ってくれました。男の人は、あ、ああ、すみません、どうぞどうぞ、と少しきまり悪そうに言いました。どうやらマネージャーさんらしきその人は、次に、私に掌を向けながらレジの人に「こちらのお客様に謝罪しなさい。」

と、静かに告げました。そして、五歳の私に「失礼な対応をして、誠に申し訳ございませんでした。」と自ら深々と頭を下げてくれたのです。

幼かった私には、その時何が起っていたのか本当に理解していたとは言えません。ただ、周りの、レジに並んでいた人たちが大きな拍手をしていたことはしっかりと記憶に残っています。あの時、あのマネージャーさんは、五歳の私のことを、年齢や性別に関係なく、一人のお客、一人の人間として扱ってくれたのだと思います。考えると、店のお客さんの前で従業員を叱る、というのは普通、避けたいことに違いありません。でも、それよりも、私の人権を大切にしてくれた。そのことを、私は今も事あるごとに思い出しています。子供だから、その存在に気づかなくても仕方ないだろう。子供だから、こちらのミスもごまかせるだろう。子供だから、こちらが謝らなくても言うめてすますことができるだろう。それは全て間違いだと思えます。

五歳のある日、私があこのマネージャーさんにどんなに救われたか、その日のことがどんなに心に刻まれたか。

私は小さな子供たちの尊厳と権利の守れる大人になりたい、と思っています。

【6月25日は宮前中学校の開校記念日】本校は、日進中学校から分離独立して、昭和54年4月1日に開校し、今年で39年目を迎えます。この年の6月25日に校舎全面使用となり、以後開校記念日となりました。これまでの卒業生は8366名、諸先輩や当時の保護者、地域の皆様に支えられ伝統を引き継ぎ、今日に至っています。